

学校だより



平成27年6月30日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

創立110周年を迎えて

学校長 渡邊文子

二谷小学校は、7月4日に創立110周年の記念日を迎えます。明治38年（1905年）4月に開校した時は、児童数599人、職員は校長先生を含めて14人。校舎はまだ完成しておらず神奈川小学校で授業をしていたそうです。（木造平屋校舎の完成は9月。）その後、学校名が何度か変わり、今の「横浜市立二谷小学校」として現在の住所に移ったのが昭和24年（1949年）7月4日です。創立記念日が7月4日というのは、その日に因んでいるわけです。

二谷小学校の歩みを改めて年表で見ると、その歴史には様々な出来事がありました。

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1905年（明治38年） | 横浜市第六高等小学校として開校 |
| 1923年（大正12年） | 関東大震災による校舎の損壊（10月15日授業再開） |
| 1944年（昭和19年） | 集団疎開開始、校舎は陸軍病院として使用 |
| 1945年（昭和20年） | 横浜大空襲により校舎消失、終戦 |
| 1949年（昭和24年） | 7月4日 横浜市立二谷小学校となる |

大震災、戦争という大きな苦難の時代を経て110年。戦後、校舎はあっても校庭は荒れ、夏休みに地域の方等の協力で整備してようやく開校を迎えたというエピソードが、創立70年記念の「二谷のあゆみ」には記されています。子どもたちの健やかな成長を支える保護者の皆様、地域の皆様の力強いご協力は、今も昔も変わらないと実感します。

二谷小学校には多くの先輩がいらっしゃいます。今も同窓会を開いているというお話を伺うにつけ、二谷小学校を愛し、出会った師や友達を大切にいらっしゃると感じます。創立百周年記念誌の対談で、卒業生でいらっしゃる滝島様が語っていらっしゃる言葉が心に温かく響きました。

「私は今でも『どこ卒業したの？』って聞かれると二谷小が母校ですって胸をはりますよ。」本当に嬉しいお言葉です。世代を超えて「母校は二谷小」という思いが、人と人をつないでくれているのです。そしてまた、伝統のバトンを引き継ぐ者として背筋が伸びるような思いになります。

今年は戦後70年という意義深い年でもあります。先輩方の「母校は二谷小」という誇りを受け継ぎ、母校を愛し大切に思う気持ちや平和な未来への夢を育てる学校でありたいと思います。

開校以来、二谷小を支えてくださった多くの皆様に心から感謝を申し上げます。どうぞ、これからも二谷小学校を見守り、ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。